

## 特集

### ライターSの患者さんインタビュー⑨ 「予防の大切さを教えてもらいました」

ブラケットライアングルができるかと、不安を感じていたKさんにお話を伺いました。インタビューの内容をダイジェスト版でお届けします。全文はホームページで。

◆矯正治療を始めようと思っただけは？

もともと歯並びが悪く、コンプレックスを感じていました。矯正治療をしていては同級生が治療をしていたので知っていました。装着を続けることで、より歯並びが強調される気がしてイヤだなあと思いついて、治療をしたとは思っていません。大人になって自分で働いたお金で治療できるんじゃないかなと思いついたから具体的に考え始めました。

◆治療中、不安だったことはありませんか。

――歯茎が下がっていると言われ、ブラケットライアングルができるのかなと不安に感じていました。歯並びが悪く、磨き残しがあったせいで歯茎が退縮してしまっていたんですね。先生に質問すると、確かに歯茎がさがっているけど、このまま何もしないでするともっと退縮が進む、ここで食い止められてよかったと言われました。本当にそうだなと思っています。

◆ひるま矯正歯科で治療をして良かったですか。

――一番良かったのは、予防が大事だということを教えてもらえたこと。また起こりうるすべてのことを良い情報も悪い情報もあらかじめ教えてくださるのでいつ

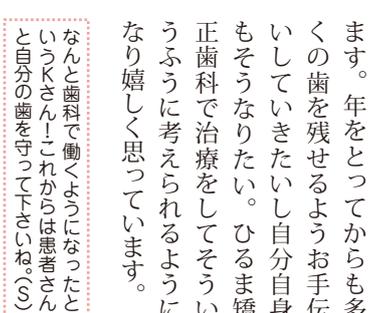
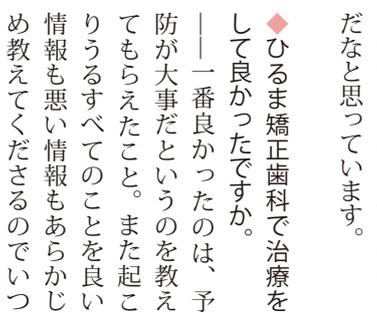
も安心して治療を受けられました。ここで治療をしてよかったと思つています。実は私は今、一般歯科で働いているんです。クリーニングをしてもらったり虫歯予防について考えるうち、興味が出てきてついに働くことにしました。

◆これから歯科の道に進まれるんですか。

――そうですね。歯科に関わった仕事を続けていきたいですね。勤務先で歯を失ったり痛くて駆け込んでこられる人を見て、予防は本当に大事だと実感しています。歯並びをきれいにしたい、噛み合わせを正し、予防するのが一番だと思います。年をとってから多くの歯を残せるようお手伝いしていきたい。ひるま矯正歯科で治療をしてそういうふうになれるようになり嬉しく思っています。

◆なんでも歯科で働くよかったですか。

――はい、Kさん！これは患者さんと自分の歯を守って下さいね(S)



## Kさんの症状について解説します



●初診時の診断：「上突咬合・両突歯列・叢生歯列」  
Kさんは上下顎前歯が唇側に傾斜し、口を閉じた時に口唇の突出感を認める症例で前歯部の叢生だけでなく奥歯にも親知らずの萌出に伴う叢生が現われていました。治療方針としては、スペースを確保して上下顎前歯を後退させながら叢生を改善する必要があるため第1小臼歯（4番）4本を抜歯とし、また特に上8番の埋伏が7番の頬側転位の要因となっていると考え、8番4本を抜歯する方針としました。治療結果は上下顎前歯が後退した事により口唇の突出感や緊張感は改善され、口唇が後退した事で赤唇部の厚みが減少し理想的な唇の厚みに変化しました。また8番を抜歯したことで7番の歯軸が真っ直ぐになり歯根も平行に並び良好な歯軸の配列になりました。初期歯周炎になっていた口腔衛生状態は改善され歯肉は引き締まりましたが下顎前歯部歯間乳頭部の退縮を認めブラケットライアングルが形成されました。上顎前歯部は歯冠隣接面を僅かに削る事で対応、下顎前歯は削ると咬合が不安定になる事、審美的な影響は小さい事から、患者さんと相談のうえ削らずに経過観察としました。



← 口唇が後退した事で正統での赤唇部の厚みが減少、理想的な唇の厚みに変化。

← 7番の頬側転位による缺状咬合は改善された。

← パノラマX線写真所見では、親知らず（8番）を抜歯した事で7番の歯軸も真っ直ぐになり歯根も平行に並び良好な歯軸の配列になった。

↓ 動的治療期間中に上1番の隣接面を削りブラケットライアングルを減少させた。